

LESSON 28

石橋さんがWill（セキュリティ志向）とMust（クラウドPJリーダー）のギャップを埋め、自身の強み（Can）を活かして次の6ヶ月で取り組むべき具体的なキャリア開発アクションを3つ提案します。

1. 「クラウド×セキュリティ」領域での専門性構築（WillとMustの融合） 会社から打診されている来期からの3年がかりの大型クラウド移行プロジェクトにおいて、セキュリティの要件定義や設計を自らリードする役割を担うことを目標とします。これにより、本人が求めている「新しい技術に触れる機会」を得ながら、「セキュリティの専門家として仕事をしていきたい」という思いを実務経験として積むことができます。次の面談で、プロジェクトに参加するにあたり「セキュリティ領域の主導権をもつこと」を上司に提案するのも有効なアプローチです。

2. 秋の「情報処理安全確保支援士」取得と知識の実務適用（Willの実現） 本人が目標としている秋の資格試験合格に向けて、計画的に学習を進めます。会社からの資格取得支援を活用しつつ、ただ資格を取るだけでなく、学んだセキュリティ知識を今後のクラウド移行プロジェクトの課題にどう適用できるか整理していくことが重要です。実務と結びつけることで、専門特化した環境に行かずとも、今の職場で専門家としてのキャリアを築く第一歩になります。

3. マネジメント力（強み）を軸にしたプロジェクト推進と技術のキャッチアップ（Canの活用） 石橋さんはクラウドの実務経験がほぼないことに不安を感じていますが、上司は「安定した顧客対応」や「チームのマネジメント力」を高く評価してリーダーに推薦しています。まずはこの既存の強みを活かしてプロジェクトを安定させることに注力し、技術的な不足部分は「プロジェクトを始めながら覚えていく」という実践を通じたキャッチアップ方針を取ることで、過度な不安を払拭します。

来月の面談に向けて、石橋さんが上司に対してこれらのアクションや自身の希望をうまく伝えられるよう、話の構成を一緒に考えましょうか？